

大きく変わる学校

共生の時代、男子部女子部統合共学化予定

(認可申請中)



自由学園中等科

自由学園は1921年に現在の東京都豊島区に創立されたキリスト教主義の学校です。当初は現在の女子部中等科・高等科につながる女子校でしたが、その後小学校(現初等部)を開校、1937年に東久留米市に移転、男子部、幼児生活団幼稚園や最高学部を設置して総合学園に発展しました。自分たちで農作業を行い、食事を作り、植林や育林に積極的に取り組み、生活と結びついた美術・工芸教育にも力を入れるユニークな教育を行っています。長年、男子部と女子部の中等科・高等科が並立していましたが、2024年度からは共学の中等科・高等科に改めるとともに、教育内容の改革にも取り組んでいきます。

1. 共学が第一歩となる「共生共学」

創立者羽仁もと子は世界が戦争に向かう1930年代、フランスで開催された教育者会議に参加し、キリスト教に根差す人間教育を通じた世界平和の実現を訴えました。そして帰国後、時代に先駆けた「男女共学・国際共学」構想を描きました。今回の学校改革では、「共生共学」として、この精神を発展的に継承します。「共生」には、「人と人の共生」、「人間と自然の共生」、「私たちは神に『共に生かされている』存在である」という意味で「共生」の3つの意味を込めています。

2. 新設科目「探求」と「共生学」

新設科目「探求」と「共生学」を予定しています。自由学園は伝統的に、ある期間集中して一つのテーマに取り組む学びを行ってきました。「探求」ではこれを通年で行います(自由学園では「探究」ではなく「探求」を用います)。各人それぞれの興味や問題意識から出発し、実生活を土台として、自ら問題を発見し、主体的・協働的に学び、問題解決に向かう力を養います。日々の学校生活が「探求」になるわけで、今回の学校改革のもう1つの柱が「生活即探求」です。

「共生学」は、「平和」「人権」「環境」など、地球規模の共通課題(SDGs等)や地域課題などに教科の枠を超えて学際的に取り組む新設科目です。社会のグローバル化が進んでいますが、同時に

人々の対立もあらわになっています。国家や民族、宗教、文化、性別、年齢など、多様な背景を持った人が共に学び、共生する平和な社会を創り出す人が育つ教育を実践します。一方、自然環境に目を向ければ、温暖化をはじめとする環境問題が深刻で、持続可能な生き方と地球上のすべての命あるものと共に生きる姿勢を身につけることが求められています。自然と共にある喜びの感情や自然への畏敬の感覚、生きた知識がある人を育てることが目標で、前述の「共生共学」を体現する科目です。様々な知的リソースとの連携や教科の融合を通じ学びの幅を広げ、柔軟な思考力や豊かな創造性を育てていきます。

3. 多様な学びを可能にする学習空間の整備

「生活即探求」の学びを支援するため、現在の女子部・男子部の校舎を、多様な学びができる学習空間へと改修します。改修後の校舎では従来型の黒板に向かって机が並んだ空間だけではなく、多様な学びを実現する多機能化した空間です。

様々な情報を活用し、1人で自律的に学習に取り組む個別学習エリア、様々なグループでの協働作業に取り組む協働学習エリア、学びで身に付けた内容を発表し、共有するための設備を備えたプレゼンテーションエリアの3つのエリアで構成されます。多様な学び方を行き来しつつ、より柔軟に、より深く学ぶこと環境を整えていきます。